

宮崎県東京ビル思い出

2003年大学進学にあたって入寮しました。
当時の家賃は18,000円。

どこに行くにもアクセスの良い東京の千代田区にこんなに安くで住めて良いのかと驚いた記憶があります。
寮の入り口の受付は当番制で、数ヶ月に1回担当していたと思います。私は高校までの学生生活の間で県内を何回か転校していて延岡・日向・宮崎と移り住んだのですが、各地で過去に出会った人たちと、東京学生寮で偶然に再会できたりもして、とても懐かしくなったのを覚えています。知り合いも誰もいない東京で、同じ宮崎から出てきたというだけで学生寮の人たちが心強い仲間のように思えました。
東京という大都会の中の「リトル宮崎」のような存在だったと思います。
入寮後、1年半お世話になりました。ありがとうございました。

以前、通信制大学のスクーリングの時に一泊させていただきました。
宮崎の物産などが飾ってあった記憶があります。
その後、就職した会社が市ヶ谷の六番町にあって、通るたびに懐かしく思い出していました。
無くなるのは寂しいですが、また、行ってみたいと思います。

大きくは3度お世話になりました。
高校三年生:40年前ですが、当時は宮崎に予備校がなく、夏休みに、どうしても東京の予備校に夏期講習通いたくて、1週間お世話になりました。
大学一年生:無事合格し、上京。当時は最長1年間でしたので、秋か冬までお世話になりました。半蔵門線が半蔵門までしかなく、市ヶ谷含めて、様々にお世話になりました。
その後:退寮した後も、友人のお父様が東京事務所勤務となったため、今度は、官舎にお邪魔して、お母様の手料理を友人やお父様とビールを飲みながら、いただいたことは懐かしい思い出です。
社会人になっても、よく前を通り、懐かしく感じていました。役割を無事に満了すること、数多い思い出と成長の場であったことを感謝申し上げます。

職員寮

2022年4月から一年お世話になりました。和室もあり古い旅館の中にいるような気分で住み心地良かったです。
良い思い出をありがとうございました。

父の転勤で幼い頃に3年住みました。
飲み会で夜中になっても帰って来ない父。心配した母がベランダから外を見ていた姿をなぜかはっきりと覚えています。

1999年に進学で入寮、その時の寮監、同級生や後輩とは、今でもつながっています。初めての東京でしたが、この寮のおかげで安心して過ごせました。まさに、東京の宮崎というか、治外法権のような場所だったと思っています。地元を離れていながらも宮崎弁が常に話せる、そのおかげで宮崎人としてのアイデンティティを忘れずにいられたような気がします。大学で住所を書いた際に、「千代田区九段南」と書くと、とんでもないお金持ちと勘違いされたこともありました。個人的には、大学も徒歩圏内だったので大変助かりました。特に、試験の際に開始時刻に目覚めて真っ青になりましたが、必死に走ったら間に合ったので、単位を落とさずに済みました。ボリュームたっぷりの夕食や地下にあった共同浴場、夏になるとちょっと厳しいトイレなど、思い出はつきません。また新しいビルに生まれ変わるとのことで、寂しいですが、今の時代に合った、学生に愛される寮でいてくれることを願っています。ありがとうございました！

昭和51年父親の転勤で家族で県東京ビルに住むことになりました。当時は家族で引っ越すのが当然でした。

初めての東京！それも千代田区九段南！見るものすべてが新鮮でした。

その頃は部屋の窓から東京タワーや霞が関ビルが見えました。夜になるとライトアップされた東京タワーや霞が関ビルの屋上の赤いライトの点滅が見えて「都会だな・・・」としみじみ思いました。

でもビルに住んでいる人たちは全員宮崎人だったので、宮崎弁で話すのが普通でした。中にいる限りは、宮崎県でした。だけどビルを一步出るとそこは首都東京！周りの会話は当然ながら標準語。無口にもなります。そんな中でもようやく仲良くなった友達と銀座に行ったり原宿に行ったり、NHKで番組を観覧したり、家族で新宿の歩行者天国に行ったり、靖国神社でお相撲さんを見たり、東京武道館まで散歩したり、宮崎では経験できないようなことをそれなりに楽しみました。宮崎ではほとんど降らない雪が降ったときは、弟と雪だるまを作って喜びました。今思えば、もつといろんな所へ行けばよかったなと思います。なんといっても受験生でしたから・・・

学生寮の門限は多分22時くらいだったと思いますが、飲んで門限時間を過ぎて帰ってきた学生が「すみません～開けてください～」と言っているのが聞こえると、父親に「また学生が帰ってきたよ」と伝え、父親が寮監さんに連絡して、ドアを開けてもらっていました。

その頃の学生は今よりおおらかだったのかもしれないね。

2年間という短い時間でしたが、縁あって県東京ビルに住むことができ、本当に良い思い出ができたと感謝しています。

あのちょっと変わったデザインのビルがなくなるのはとても寂しいですが、新しいビルができたなら、また誰かの新しい思い出になっていくのでしょうか。

平成11年度に大学進学で入寮しました。寮監、寮の先輩や後輩などがとても仲良くしてくれて、時々新宿歌舞伎町の居酒屋「みやこんじょ」にも飲みに行っていました。

食堂のお姉さん2人にも仲良くしていただき、飲みに行った時にはとてもご迷惑をかけた覚えもあります。ごめんなさい。また、食堂お姉さん方には、自分の彼女を寮食堂に招いた時に、快くご協力いただき、とても感謝しています。(女性は入れませんでした。食堂までの入室許可はいただきました)

近所の青山ごはん亭のビーフシチュー弁当は最高でした！

また、ラーメンかわかみの火曜日？のギョーザ半額の日は激アツでした！

たくさんの友達ができ、寮の仲間との生活はとても貴重で、かけがえのない日々でした！

落語家の元・三遊亭天歌さん(現在は休業中)が1階で、宮崎県を紹介する落語会を行っていました。

当日は、宮崎県東京事務所の方々もボランティアでお手伝い。笑いと宮崎愛に包まれた、楽しく温かい会でした。

昭和60年に入寮しました。この年、宮崎西高→東大組はかなりの数が入寮したんじゃないかと思います。バブル前夜でね、東京はホントに「花の都・大東京」でしたし、それ以降も華やかになる一方だと予感させてくれました。当時、最強通貨・円を握る日本は強かったのです。あの一時期を都心で過ごせたのは良い経験だったと思います。山手線の真ん中ですから。どこに行くにもすぐ。でも、大学の授業1限に出るのは、どこに行くのにも満員電車ということでもありました。一度連れ立って登校したことがあって、渋谷駅での乗り換えで、ある寮生が人ゴミに押されて「助けちくりー」と思わず言ってしまい、こちらも「そんげなこつ言うち恥ずかしーがね」と言っていました。周囲がクスクス笑ってました。でも、今から考えると、周囲だってみんな「田舎者」か「元・田舎者」だったんですけどね。東京ってのはそんげなところですよ。

洗濯機が並ぶ中層階からは、市ヶ谷の街が一望できました。その風景を見、アメ横で買ってきたナウい服を洗いながら、10年後、20年後にはどんな人生が待っているんだろうと思いを馳せたものです。その後、私はテレビ局に入社しました。宮崎県東京ビルのすぐ近く、日テレさんではなく、ちょっと離れたTBSです。あの日々から35年が経ちました。

職員宿舎(平成13~15) 父親の転勤に伴い、入居

当時3人兄弟でしたが、3畳の部屋が子供部屋に割り当てられ、1人1畳で暮らしていて狭かった。

同じ宿舎に住んでいた同年代の子らと遊ぶときには2Fに集合して、ボールやゲームで遊んでいた。

暗証番号付きのドアを、いかに早く開けられるかを友達と競っていた。

宿舎に初めて来る友人らは、いつもエレベーターでどこに止まればよいか分らず困惑していた。(階と階の間に止まる形式だったため。)

学生寮側にあった卓球スペースで友人とよく遊んでいた。騒がしく遊んでいたが、学生寮に住んでいるお兄様方がくると、びびって静かに卓球していた。

- ・2021年度は、毎日子どもがひとりで独占していたピロティ
- ・2021年の参議院議員選挙の東京1区の応援演説に、麻生副総理が来ていて、ベランダから麻生さんを見ることができた。
- ・東京ビル屋上から見えた東京オリンピック開会式に向かうブルーインパルス
- ・家賃2万円以下の宿舎に2億円超えのマンションのポストイングが入れられていた。
- ・3日くらい残った雪で、スリッパをする怖さを体験

- ・家族で1年間住んでいたが、地下の大浴場が土日に開放され、子どもと一緒に1回50円で利用していた。
- ・4月及び3月の引越の際は、職員総出で手伝っていただいた。
- ・2階のピロティ？で、夏場は防災訓練後にバーベキューをしていたような・・・。
- ・周辺のお店は物価が高く、生協の配達は大助かりだった。
- ・夜自転車で九段下を移動していると、頻繁に警察に職質された。
- ・8階に住んでいたが、夏場は屋上の熱が屋内に下りてきて、夜も猛暑だった。エアコンが3台も設置されているのに驚いたが、納得。

思い出というほどではないプチ情報です。

平成5～7年度に当時の管財課に所属して、東京ビルの管理を担当していました。

東京ビルは、奇抜なデザインで迷路のような建物という印象ですが、建築物の賞を受賞したと聞いています。

建物本体かと思ったら、宿泊棟のドアに描かれていたよく分からない模様が、遠くから見ると部屋番号に見えるというデザイン関係の賞だったような気がします。(あやふやな記憶です。)

また、奇抜なデザインの建物あるあるで、宿泊棟のフロントのガラス張りの屋根から雨漏りして困るとよく言われていました。

学生寮関係では、寮の入口に公衆電話が1～2台あり、寮生がその電話の取り合いでもめることがよくあって、当時の寮監が困っていたという話を聞いたことがあります。今では考えられませんが、当時の寮監、寮生にとっては深刻な問題だったようです。

当時から建て替えや廃止の話はよくありましたが、ようやくという感じです。

大学入学に合わせて、昭和62年4月から約1年入居していました。相部屋になったのは高校のクラスメイト。毎日部屋でダベってましたし、市ヶ谷駅近くの中華屋(名前は忘れた)と一緒にいき、よく「スタミナ茄子飯」を食べていたことを覚えています。ほかにも高校の同級生が6-7人入居していて、禁止されていた麻雀をやっては寮監に怒られたり、門限を過ぎて帰宅した時でも、こっそり館内に忍び込めるルートを開発したり、なんかそんな素行の悪いことばかりしてたように思います。当時の寮監、すいません。

慣れない都会で、携帯電話もない時代に、ほとんど孤独を感じたことがなかったのは、そういうゆるやかな同郷コミュニティがあったからだと思います。感謝しかありません。

あ。そういえば、1Fの掲示板に「靖国神社の夏祭りバイト募集」のチラシがあって、友だちとふたりで3日間、テキ屋さんの手伝いをしました。もつ煮込みなどを売ってたんですが、そこに女優さんがふらりとやってきて接客したのが良き思い出。東京っつすげーって感じました。

平成6~8年の間だったかと思います。若い頃だったので東京出張時には安さと交通の便利さから何度も利用していました(女性の利用は少なかったかもしれません)。いろいろな思い出はありますが、印象に残っている2つを書きます。一つ目は、辛子明太は全国共通では無いことをここで知ったことです。以前は朝食の提供もあり、利用していましたが、あるとき明太が出ていたので食べたところいつも食べるぴりっとした感じがなく、「ん??？」祖母が福岡に居たので子どもの頃からよく辛子明太を食べていた私にとって辛子の効いていない明太は衝撃的でした。少々生臭さがあり、やっぱり辛子明太が好きだなと思った機会でした。2つめは、寮の管理の方から東京案内をしていただいたことです。お休みの日に皇居や靖国神社などの名所と一緒に自転車で巡りました。普段は入れない所も顔パスで入れていただいたりして、初めての一人での東京出張だったのでとても不安でしたが、とても楽しい思い出になりました。ちなみに案内していただいた印象が強くて出張の内容を思い出せません(笑)。

昭和62年4月に大学進学の際に学生寮に入寮しました。当時は1年間しか入れませんでした。家賃1万2千円は当時としても破格の安さで市ヶ谷に住むことができ、大変助かりました。

また、学生寮は当時でも古く、部屋も狭い上に2人部屋で風呂は大浴場、トイレは共用、洗濯機は台数が少ないために順番待ちは当たり前でした。本当に古き良き学生寮という感じでした。

学生寮には門限があり、午後11時30分くらいだったと思いますが、門限を過ぎて帰ってくる際には、相部屋の人に何時に裏口を開けてくれとお願いをしていたことを覚えています(スマホもケータイもないので、閉め出されたら朝までは入れません)。今思えば寮監さんにはご迷惑をかけたのではないかと思います。

建て替えられても学生寮は継続されるのでしょうか。宮崎県の学生寮は他県に比べてとてもいい立地にあります。今後も東京で学生生活を始められる方の最初のステップとなり、いい思い出を作りたいです。(今度は一人部屋なんですか?)

学生寮

平成2年度から2年間入寮しました。

東京のど真ん中にありながら、夜になると宮崎弁が聞こえてくる不思議な空間でした。

1階のカップ式ドリンク自販機の桃ジュースがお気に入りでした。

当時の寮監には、私が寝込んだ時に病院に連れて行って頂いたり大変お世話になりました。病院から帰って来た時に作ってもらったお粥が体に染みる美味しさだったことを今でも覚えています。

【さようなら宮崎県東京ビル 青春の煌きをありがとう】

私は1972年、学生寮の第一期生です。初めてづくしの都会暮らしは、不安な中にも真新しい寮の一室から期待に胸弾ませるスタートでした。

ここに入寮することになったきっかけは色々あります。第一の要因は一浪したことにあります。もしストレートに合格していれば当時建物は未完成で、入寮は叶わなかったこととなります。合格通知を受けて早速親父と上京し大学寮を見に行きましたが、第二の要因がそこにありました。大学寮は大学のすぐ近くで、もっとも有利な候補地でした。しかし時代は学生紛争の残り火が未だくすぶる頃のこと。寮内のここかしこの壁に血気盛んな学生が檄文などを書き連ね、おどろおどろしい様相を醸していました。それを見た親父は、田舎出の自分がそのうねりに巻き込まれることを案じ、早々に候補地から外すこととなります。少し離れてはいましたが宮崎県人のために建てられた建物がある、ということで、「一年生に限り一年だけ」という縛りもありましたが、初めての東京暮らしを案じる親心には、適切な場所に思えたようです。そうして私の向学心に燃えた？青春の日々が始まったのでした。

近くに日本棋院があり、囲碁を趣味とする親父の鼻を明かそうと不遜な野望を持ち、せっせと通った時期がありました。帰省した折に一手手合わせを試みたところ、「おお、強いな、すごいなあ」と言われその気になっていると、最後にはものの見事に逆転され、とても敵う相手ではなかったと思い知りました。

また、市ヶ谷には自衛隊の駐屯地もあり、隊員と同席になった店で激しい論戦を交わした記憶もあります。いやはや今思い返せば若気の至りとハラハラするようなことも多々ありましたが、たった一年間の思い出の中には凝縮された青春の煌きが今も私の胸にあります。

数年前上京した時、近くに宿泊したので、懐かしさのあまり事務所を訪ねました。建物が無くなるのは寂しいですが、新たな建物からまた新しい人生を踏み出す若者が巣立つことでしょう。そんな若者に故郷の地からエールをおくってまいります。

平成6月4月に東京事務所に異動になり、平成9年3月までの3年間、東京ビルに入居させていただきました。

宮崎県を離れて、東京での一人暮らしの生活でしたが、東京ビルに入居できたことで、職場でも家でも、すぐ近くで宮崎弁が飛び交い、まるで宮崎にいるかのような環境で過ごすことができました。

当時の所長のお声掛けで、東京ビルの屋上で十五夜のお月見をしたことが、今でも良い思い出として残っています。

宿泊施設

1993年夏コミックマーケットに行ったときに宿泊しました。私の両親が東京の宿泊先に不安を持っていて、電話にて予約して手配してくれました。

宿泊したのはよかったけど、渋谷で夕食して、お風呂が門限で使えなかったりして大変でした。翌日の朝食もイマイチでほとんど食べずに別なホテルの朝食バイキング(帝国ホテル)に行きました。そして大阪行き列車の待ち時間があったため東京ビルに立ち寄ったら係の人が宮日を読んでいたのでちょっと僕に読ませてほしいと頼んだけどいろいろと揉めてしまって、そのまま東京駅に向かってしまった。

当時はインターネットがなかったので宿泊の予約なんか大変でした。今ならコミックマーケットや池袋などのコスプレイベントに行く際、ジェットスターを予約して、秋葉原に近い山谷のホテルを1泊4000円で予約できます。お風呂もきれいだし、Wi-Fiもあるし、近くにはイオンのミニスーパーがあるので安心できます。当時両親は山谷に泊まることに不安があったみたいでした。今のように外国人が泊まれる環境ではありませんでした。

手術のため築地の病院に入院した父、付き添いの母はその期間こちらにお世話になりました。

慣れない東京の地で毎日市ヶ谷から築地に通っていた日々も、宮崎弁で迎えて下さる寮監の方にホッとしたそうです。

残念ながら父は亡くなりましたが心置きなく治療が出来て感謝していました。

不安な日々を支えていただき有難うございました。

その時に3歳だった息子も大学進学時にはこちらの学生寮でお世話になりました。初めての東京暮らし、親も子も安心してスタートをきれました。2人部屋で同じ部屋だった友人とは今も仲良くさせていただいております。

宮崎から離れた東京の地でここ東京ビルは様々な思いを抱えた人のホッとできる場所になり支え繋いでくれました。

新しく生まれ変わってもそのような素敵な場所であり続けます様に！

「思い出を作ってくれた県東京ビルに感謝」

私は、県東京ビルができて、3年後大学の通信教育のサマースクーリングに始めて1回だけお世話になりました。県ビルは最高の立地にあり、東京にいて宮崎でした。スタッフの方々も食事も話す言葉も全てが宮崎で安心感がありました。いつか、私もここで生活できたらなとかすかに思ったことがありました。その願いは後に届き叶えられました。主人の東京転勤に伴い家族で東京へ。東京へ持っていく荷物は部屋が狭いので最小限にして引越しも当時経費を安くする為、カーフェリーでコンテナ輸送でした。赴任着後、職員さんやご家族皆さんの懇親会でお出迎え頂きましたことも懐かしいです。幼稚園児と小学生の子供2人の東京3年間は本当に貴重な経験をさせて頂きました。幼稚園の子供がいたお陰で東京のお母さん方との濃いお付き合いができ、振り返ると数々の場面が思い出されます。その当時イランと日本は友好関係にあり親子でイラン大使館のお友達宅へ招待されたこともあり。又、東京で最初のお盆前。家族で夕食時にJAL飛行機の緊急事故速報が流れ、その時の光景は今でも忘れられません。県ビルの狭い台所やセントラルヒーティングの冷暖房の効きが良くなかったことやベランダが広がったこと等思い出します。ある朝大雪が降り屋上へ行くと雪が溶け、みぞれ状の沼地の様になって驚きでした。たまに学生寮の卓球台を借りて県ビルの奥さんとキャーキャー言って楽しんだりしました。ある時、子供のクリスマスプレゼントを買ってきて、どこに隠そうかと地下の倉庫へ持っていく、寝入って取りに行こうと思っていたら、子供の同級生の子供さんが私を上から見ていたらしく5年生の息子は、そこで始めてサンタが誰かを知ることになりました。職員さんの家族同士で宿泊旅行も楽しみました。私は赴任が終わる直前、思わぬ交通事故にあい大変皆様に多大なご迷惑やご心配をおかけしました。治療を終え迎えに来た主人と最後の宿泊は県ビルでした。私達家族に沢山の思い出を作ってくれた県ビルにありがとう、そしてさようなら。

宮崎西高理数科卒業生です。

平成元年(1989年)3月、東京大学文科一類(法学部)合格発表を見に行くために母とともに宿泊しました。

前日は緊張のため眠れず朝になり、顔面蒼白で朝食をとりました。

寮の職員の方に一声かけ、合格発表の場、東大本郷キャンパスへ向かいました。

そして歓喜の合格！

合格関係書類を山のように抱え夜遅く戻ると、職員の方が待っておられました。

「合格しました」と報告すると大喜びして下さり、果物を差し入れてくれました。

今、宮崎の地に住んでおりますが、34年経った今も昨日のここのように思い出します。

あの建物が無くなるのは感慨深いものがあります。

建て替えられた東京ビルが、宮崎県の若者を受け入れ、旅立つ新たな場になることを期待します。

昭和47年、県職員の父の転勤で2年半程職員宿舎に住んでいました。
当時は緑色の建物で、新しく、形も変わっていて大変目だっていました。宿舎の上の階からは、霞が関ビルが見えていたと思います。また、2階はコンクリートの遊び場で、ローラースケートができました。冬に雪が降ると、学生寮の学生達が地下駐車場へ続く坂で段ボールソリすべりをして遊んでいたのを覚えています。

1996・97年度に学生寮でお世話になりました。
当時、寮生にNHK「ためしてガッテン」から被験者のオファーがあり、参加したことが思い出されます。
1997年1月8日放送の「健康食きのこ再発見」の回だったと思います。
きのここと肉の食べ合わせは血液中のコレステロールの値を下げる効果が大きいらしく、食堂の料理人さんが毎夕食にしいたけ & 肉のいろいろなレシピを振舞っていただき、被験者となった10人程度の学生皆いっしょに2週間食事し、週一回の採血で効果を検証していました。
この放送回はNHK宮崎が企画担当だったのかも??
この当時、食堂の料理人さんに夕食を注文する学生は私以外皆無でしたので、食堂は寂しい空間でしたが、この期間だけは食堂がにぎわっていました。

東京ビルの職員寮に平成10年4月から3年間住んでいました。
外観は黒色で重厚な感じで、周りのビルよりは少し古くはありましたが、カッコいいビルでした。
東京のど真ん中にあるのにビルの中は完全に宮崎。会話も宮崎弁なので、第一子出産予定で不安いっぱい引っ越ししたのに、安心して子育てもできました。
2階にあるピロティは子どもたちの遊び場。ピロティ横の小さな庭では季節を感じることもできました。
夏には、ビルの職員、東京事務所の職員とその家族、省庁に出向している県職員が集まって、宮崎県産肉を焼いて飲み会をしたこともありました。
東京の物価の高さにお金は随分無くなりましたが、思い出はかなりたくさんあります。

平成元年、大学進学のために上京し、入寮し2年間お世話になりました。
県人寮に入寮できたことで、苦学しつつも、経済上の不安なく、最初の大学生活を送ることができました。誠にありがとうございました。

東京ビル設計時、最終段階で設計に加わられた坂倉建築研究所OBの建築家・室伏次郎さんより。
2021年12月に、東京ビルを見学しました。その際に感じたことを今回、改めて振り返っていただきました。
「急激に変貌を遂げつつある発展途上都市にあって、個人の領域を保護感のある場として確保された空間とするためのスタ
ディに、全力を挙げて取り組んだ想いが懐かしくおもいだされる。また、その成果である空間は今も有効なものとして生きている
とおもう」
室伏さんは、2022年12月に宮崎市で行われた「ひむかへリテージ機構講習会」にて、県総合博物館、県青島青少年自然の家
なども見学し、「坂倉建築研究所の思い出とわたしの建築」というテーマでご講演いただきました。

平成12年3月末、国内で92年ぶりに発生した口蹄疫で混乱する宮崎から、4月に県東京事務所に転勤した私は、国への陳情で
上京する知事対応で荷ほどきをする間もなく、慌ただしく東京での生活を始めました。
当時は家族での赴任が殆どで、単身赴任(愛犬がいたため)は私一人でしたが、早々に東京ビルの食堂であった歓迎会には、
その日上京していた妻も参加し、職員家族に加え宿泊施設や食堂等を運営していた県公園協会の方々も一緒にとても賑やか
でした。二次会は近くの東郷公園にシートが敷かれ満開の桜の下で懇親を深めましたが、この時に東京に来たんだと改めて実
感しました。
5階の自室は6、4.5、3畳の和室にDK。窓からは東京タワーも見え日本の中心にいるという感覚をいつも味わっており、休日
は徒歩で近くの靖国神社や神楽坂界隈に買い物を兼ねて行っていました。情報収集のために早朝の自民党本部の部会傍聴
によく行きましたが、郊外に宿舎がある他県の職員からは、都心の一等地にある宮崎を羨ましがられたものです。
二年目に娘が都内の大学に合格したので一緒に住むことにしたところ、一人暮らし希望の娘は不満でしたが、共有の6畳と4畳
半を娘に使わせることで納得させました。しかし、大学にも近く買い物にも便利なため、そのうちに娘も気に入り、時には終電に
乗り遅れた友人達を泊ませたりしていました。夜型の女子大生と朝型の父とのすれ違い生活は2年間続きましたが、今となっ
ては娘との東京暮らしは大切な思い出となっています。
ユニークな建物は周囲からも異彩を放っていましたが、1月の宮日で「坂倉建築」であることと今夏解体予定であることを知り、
その後、父上の転勤で子供時代に住んだことがあるお二人が投稿されたこともあって、改めて懐かしさがよみがえってきま
した。
3年間の東京ビルでの生活は思いがけない経験でしたが、帰宮して20年経ってみると宮崎の良さを改めて知り、多くの友人と
思い出を得て幸せな時間だったと感じています。心残りは妻と一緒に暮らして江戸・東京の歴史と文化を二人で堪能してみた
かったことです。

昭和51年春入寮。1限目の授業のためには7時半過ぎに寮を出る。
市ヶ谷駅までの途中「帯坂」と言う50メートル程の坂があり、その時間坂の下から道路一杯になるほどの女子学生が登ってくる。近隣に数校女子中高校があったらしい。甘い香りがする中駅まで下っていく。中高男子校だった小生としてはなんと至福の刹那だったことか。
部屋は9階2人部屋。窓からは新宿池袋が望まれ建築中のサンシャインビルがだんだんと高くなった。外部の人は宿泊禁止だったが友人が遊びに来て泊まることになった。自室で他の寮生とも一杯やった後友人が酒瓶を持ったまま廊下でも歩いていたんだろう。寮監さんに見つかり「君は誰だ。そのウイスキーはどうした？」と詰問され、「寮生の友達です。ウイスキーはトイレに落ちてました」とすぐばれるような嘘をつき2人してお説教を食った。今でも呑むとよくこの思い出話しになる。
門限は23時だったと記憶している。過ぎると当然出入り不可能になるが5階の洗濯場の天窓「縦40センチ横90センチ？」に飛びつきよじ上り身をよじて擦りむきながら通過し職員寮側に出て外へと脱出した。
寮費は1ヵ月8000円だったか？東京の生活に慣れるまでの一年間寮に守られていた。
交通事情にも驚嘆。市ヶ谷駅から電車に乗る際、一日中10両編成の電車に多くの人が乗車し、その電車間隔の短いこと。最初、ホームへと階段を降りて既に到着している電車に駆け込もうとしたが間に合わずがっかりしてその電車を眺めていた時次の電車が来た。私が通学していた妻線とは異次元だった。
取り壊されるのは寂しい気もするが、また新たな時代に新たな建物ができる事はワクワクするものである。在りし日の青春の記憶の一端を掘り起こすことができ感謝！

思えば2011年のわけもんフォーラムに参加したのがきっかけでした。
勉強会、そして懇親会と。
そこで懇親会を共催していた「いっちゃんが宮崎」を知り、その後参加し続けるに至りました。
そこから県人会を知り、九州各県の青年部の集まり「クラブQ」を知り、交友の幅が大きく広がることに。
そして今ではクラブQの幹事として微力を尽くしております。
いっちゃんが宮崎の定例飲み会でも度々利用させて頂きました。
宮崎県東京ビルのお陰で、素敵な出会い、思い出が出来ました。
今まで有難うございました。

昭和62年から1年間入寮しました。寮監をはじめご飯を作ってください方と仲良くなり、一緒に記念撮影もしました。卓球大会もあり懐かしい思い出です。

その26年後、平成25年から2年間息子がお世話になりました。

息子が入寮したとき、お風呂等を見せていただき大変懐かしい思いをしました。

今回、取り壊されるのは残念ですが、親子共々たくさんの写真と思い出を持ち続けます。

ありがとうございました。